



会議レポート

DICOMO2017 シンポジウム 参加報告



図-1 定山溪万世閣ホテルミリオネ



図-2 セッション会場

DICOMO シンポジウムとは

2017年6月28日(水)から30日(金)までの3日間、北海道札幌市の定山溪温泉にある定山溪万世閣ホテルミリオネにおいて、DICOMO2017 シンポジウムが開催された(図-1)。

DICOMOは、マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム(Multimedia Distributed Cooperative and Mobile Symposium)の略で、研究会が共同で主催する合宿形式のシンポジウムである。1997年度の初開催以来、今回で21回目を迎えた。2017年は次の10研究会が参画した。

- マルチメディア通信と分散処理(DPS)研究会
- グループウェアとネットワークサービス(GN)研究会
- モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム(MBL)研究会
- コンピュータセキュリティ(CSEC)研究会
- 高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS)研究会
- ユビキタスコンピューティングシステム(UBI)研究会
- インターネットと運用技術(IOT)研究会
- セキュリティ心理学とトラスト(SPT)研究会
- コンシューマ・デバイス&システム(CDS)研究会
- デジタルコンテンツクリエイション(DCC)研究会

発表

本シンポジウムには、400名以上の参加者があり、251件の発表セッションと12件のデモセッションが行われた。

発表セッションは基本的に8つのパラレル形式となっており、参加者はそれぞれ興味・関心があるセッション会場に移動し、聴講することができた。発表内容は学術的な内容のみならず、実社会で起きている問題に関する内容もあった。発表時間12分、質疑応答8分、合計20分と質疑応答の時間が比較的多く取られていることもあり、質疑応答が大変活発であった(図-2)。

デモセッションでは、デモが一堂に集められ、2時間



図-3 デモセッション

の間に、参加者は興味があるデモを拝見し、発表者とのインタラクティブな議論を楽しんだ(図-3)。

2017年の統一テーマは「ICTが創造する新たなバリュー」であった。ICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)は、電気、ガス、水道といった重要な社会基盤の1つであることは疑いの余地がなく、ICT適用領域も年々拡大している。

本統一テーマを元に基調講演として、現在注目されているディープ・ラーニング技術の1つである、畳み込みニューラルネットワーク(Convolutional Neural Network: CNN)の元となるネオコグニトロンを世界で初めて発表した、ファジィシステム研究所の福島邦彦氏が「Deep CNN ネオコグニトロンと視覚情報処理」と題して講演を行った。ネオコグニトロンの基本から最近の発展をニューラルネットワークに関して事前知識がない方にも分かりやすく説明し、好評であった。

さらに、招待講演として次の8件が講演された。これらの題目からICTの適用領域の広さを実感できるであろう。

- 音響信号による屋内測位技術
- 感情を介したコンテンツと人とのインタラクション
- 製造業におけるIoT—現状と将来

- デジタルフォレンジックツール使用法学習教材の開発および導入—北海道警察本部におけるサイバー犯罪対策人材開発に向けた試み—
- 運行実績データに基づく列車の遅延対策
- IoT エッジセンサーの知能化に向けて
- ネットワークログ分析による異常検知の可能性について
- ICT が切り拓く革新的な農産物栽培モデル確立への挑戦

イベント

恒例のアウトドアセッションとナイトテクニカルセッションがそれぞれ2日目に行われ、参加者同士の交流が図られた。

アウトドアセッションは、定山源泉温泉公園の散策であった。本公園は定山溪温泉の基礎をつくった修験僧・美泉定山の生誕200年を記念して造られたものであり、大自然が長年に渡って培った雄大な光景に参加者は大いに感動したと思われる(図-4,5)。

ナイトセッションでは、昼間の真面目な研究発表とは一転して、カジュアルな雰囲気の中で研究室・大学紹介、プロジェクト紹介、テーマ提案、芸披露などさまざまな発表があり、どの発表も昼間の発表と同様、事前によく発表練習されたことが想像できるほど完成度が高く、会場を大きく沸かせた(図-6)。

さらにDICOMO恒例となっている、参加者全員が一堂に会して夕食を取る形式が今年も継承された。400名以上が巨大な宴会部屋に集まって御膳スタイルで食事を取る光景は圧巻されるものがあり、各自が思い思いに楽しんだ(図-7)。

表彰

DICOMOでは参加者の投票による表彰制度が設けられており、以下の賞が贈られた。

- 野口賞(優秀デモンストレーション賞) 6名
- 最優秀プレゼンテーション賞 3名
- 優秀プレゼンテーション賞 31名
- ヤングリサーチャー賞 24名
- シニアリサーチャー賞 1名
- ベストカンバーサント賞 3名

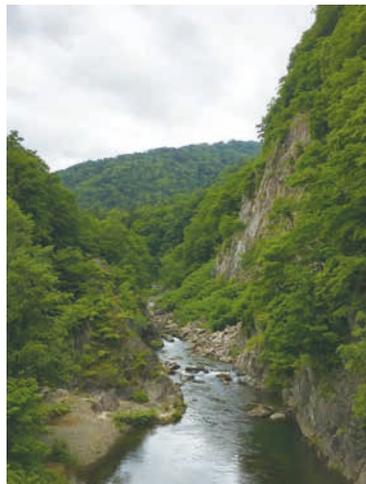


図-4 アウトドアイベント

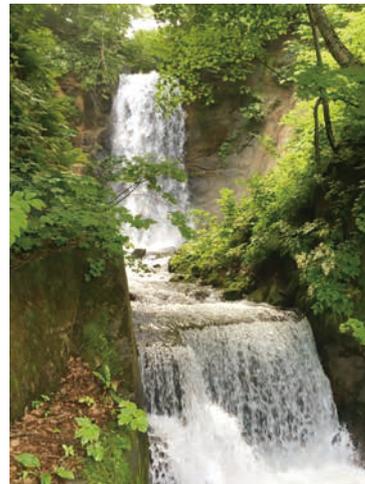


図-5 アウトドアイベント



図-6 ナイトセッション



図-7 夕食の光景

また、DICOMOの活動にこれまで貢献した4名の方に活動功労賞が贈られた。

来年会いましょう

本稿では、DICOMO2017シンポジウムの参加報告を行った。本会議レポートでDICOMOシンポジウムに興味を持った読者はぜひ来年の参加を検討してほしい。

最後に、本シンポジウムが成功裏に終わったのは、開催に携わった多くの方の甚大な功労によるものである。実行委員会、プログラム委員会、運営委員会の皆様に感謝を述べたい。

(勝野恭治 / IBM 東京基礎研究所)